



いま 現在を生きる

写真と音楽でコミュニケーション

荒川 顕さん (中小屋中学校長)

平成 14 年度に当別小学校から中小屋中学校に赴任。中小屋の四季折々と学校の様子を写真で地域に



イチイとアジサイ

伝え、音楽活動を通して、人とのコミュニケーションの場を広げています。

少人数の良さを存分に生かす工夫を日々の学校生活に取り入れています。



中小屋中学校の正面玄関を開けると、「中小屋ハートフルストーリー」の掲示板が目に飛び込みます。中小屋地区の四季を映し出す写真にスーッと引き込まれていきます。

同校に赴任して3年目を迎える荒川校長は、中小屋の自然や生徒の飾らない素直な姿を収めた写真を、学校だよりや展示で伝えています。

「中小屋に来たとき、小さな学校を巣立つ子供たちに、ここの素晴らしさを発見していつまでも誇りに思ってもらいたい。素敵な風景を言葉で伝えるより写真の方が伝わるのでは、という思いだったんです。写真を見た地域の方に後押しされて、中小屋会館や郵便局にも展示させてもらっています。写真も気持ちを伝えるコミュニケーションのひとつだと思いますね」という先生が作る学校だよりは、季節を感じる写真とコメント、生徒たちの笑顔が溢れていて、写真が言葉では伝わらない大切なものを伝えてくれているのが実感できます。

「デジカメ片手に出かけると声をかけてくれることも多く、早く地域になじむこともできました。何より写真を通して人との関わりが広がりました」と、今ではデジカメを手放すことが出来ないようです。

チャレンジ精神旺盛な荒川校長は、子供たちにもいろんなことに取り組んでもらいたいと昨年からは音楽の授業に琴の演奏を取り入れています。夏休み期間中に3人の女性教諭が、町内の琴の先生のもとで猛特訓して、現在生徒に教えています。「今年は、2年目なので発表の場を広げて多くの人に聞いてもらおうと思っています。発表する場があると、生徒たちも練習に熱が入ります。うまくできない悔しさから涙をにじませる生徒もいますが、くじけ

ずに目標に向かって頑張る力を養っていけたらと思っています。先生方も理解してくれて熱心に指導しています」

そんな荒川校長は、早来町の全盲グループ『スマイルフォービート』のコンサートを支援するボランティアや、自らも70年代フォークを中心に活動するバンドにも所属しています。以前、赴任していた学校の父母や先生とバンドグループを組み、千歳の馴染みの喫茶店で練習を重ね、8月には、野幌森林公園内にある「森林の家」でコンサートを開きました。「バンド仲間と何を演奏しようか、お客さんが来てくれるために何をしたらいいだろうかと、当日までの練習はもちろん、準備の心配や緊張は絶えないのですが、携わってくれた人との関わりの中で学ぶことがたくさんあります。いざ本番に会場いっぱいに来て下さったお客さんを見るとやってよかったという充実感を味わうことが出来ます。

コンサートなど、発表する場を企画して実行するまでを経験することで、人として成長していけるので、先生や生徒たちにもそんな経験をしてほしいと思っています」写真や音楽はもちろん、校外の人との関わりを積極的に取り入れて、生徒数の少ないハンディを乗り越える工夫を重ねている荒川校長のアイディアは果てしなく続きそうです。



夕暮れの中小屋中学校

